

1 今年度の取組と自己評価

本校定時制課程は、自己の能力を生かし、社会人として自立できる健全な生徒を育成する学校を目指し、「自主：自ら判断し、律して行動する」「創造：豊かな創造力で未来を拓く」「連帯：愛と責任をはぐくむ」を教育目標として掲げてきた。

令和元年度までの中期目標として、

- (1) 組織的な指導力・授業力を有する学校
- (2) 生徒の学習・生活環境を向上させる学校
- (3) 地域から信頼され愛される学校

という3つを掲げ、今年度は教育活動の目標を以下のように設定し取り組んだ。

- ア 分かりやすい授業の一層の推進（学習指導）。
- イ 落ち着いて生活できる安全・安心な学校の維持（生活指導）。
- ウ キャリア教育の視点を重視した生き方指導の充実（進路指導）。
- エ 生徒の自主性と実践的な態度の育成による自己有用感の向上（特別活動）。
- オ 生徒募集対策の充実（学校運営）。
- カ 服務規律の厳守（学校運営）。

学校運営連絡協議会では、従来から評価されている生徒の取組に加えて、教員の指導体制についても高評価をいただいている。学校公開週間では、地元中学生の参観も増え、生徒の集中ぶりを見ていただくことができた。また、生徒募集対策として、11月、1月、3月に学校説明会を計画し、江戸川区内の全中学校に学校案内等を郵送した。

今後とも引き続き、教育委員会からの支援、指導・助言もいただきながら、本校に期待される教育活動の充実を図る。

2 重点目標への取組と自己評価

(1) 学習指導（分かりやすい授業の一層の推進）

- (ア) 生徒に学習の見通しをもたせ、分かる喜びを味わわせる。

各学期の期末考査後に補習・追試を実施し、生徒の理解不足を早い段階で補ってきた。第1学年全員に対してスクールカウンセラーによる個別面談を実施し、生徒の学習面や生活面など生徒の内面に迫り、生徒個々の問題把握に努め、対応してきた。面談結果については、スクールカウンセラーとユースソーシャルワーカーを交えた月1回の教育相談委員会及び、適宜開催する生徒情報共有会議で生徒情報を共有し、課題のある生徒にはカウンセラーからのアドバイス等を踏まえた課題解決に向けた取組みを行い生徒指導に活かしてきた。

- (イ) 重点目標に対する評価

「教員は、教材や教え方に様々な工夫をし、わかりやすい授業をしている。」について、生徒の80%が肯定的な評価を出している。重点目標である80%以上を上回る評価であった。

「教員は、親身になって指導を行っている。」については、生徒の74%が肯定的な評価を出している。重点目標である80%以上を下回る評価であった。

「学校が読書活動を行っている。」について、生徒の34%が肯定的な評価を出している。重点目標である読書不読率40%未満に対して、一層読書活動を充実していきたい。

(2) 生活指導（落ち着いて生活できる安全・安心な学校の維持）

- (ア) 授業規律の確立や遅刻、交通安全等の生活習慣の指導

生活指導については、基本的な生活態度などの指導については、生徒、保護者、教員ともに満足度の高いものであったが、落ち着いた環境設定については、授業中のルール厳守などを教員が丁寧に指導し、安全・安心な環境をつくっている。

(イ) 重点目標に対する評価

「先生方は、生徒の心身の悩みをよく聞いてくれる。」について、生徒の71%が肯定的な評価を、「教員は、落ち着いた授業環境をつくっている。」について、生徒の77%が肯定的な評価を出している。重点目標である学校生活に対する安心感80%以上を達成することができなかったが、「生徒は、楽しく充実した学校生活を送っている。」について生徒の94%が肯定的な評価を出しているので、概ね充実していると思われる。

「生徒は、きちんとあいさつができる。」については、77%の肯定的な評価であった。内向的な生徒が増えてきており、次年度の課題としてあいさつの大切さを理解させるよう、一層の指導が必要である。

「学校は、体罰や暴言がない環境づくりに積極的に取り組んでいる」について、生徒の92%が肯定的な評価を出している。今年度の調査で体罰・暴言等の調査回答は0%であるが、環境づくりへの積極的な取り組みについては、教員の更なる努力が課題である。

(3) 進路指導（キャリア教育の視点を重視した生き方指導の充実）

(ア) 生徒の自己実現を目指した進路指導の充実

外部単位修得のための指導を行い、今年度、三修制により3名の三年生が卒業した。進路指導では、5月にオンライン進路ガイダンス、7月に若者就労支援協会などを招いた進路行事、3月にはハローワークの方を招いた講演を実施した。

(イ) 皆勤・精勤の奨励

令和4年度1年間の皆勤者数は4名と昨年度の1名から増加した。精勤者数は10名と昨年度の13名から減少した。在籍者数に対する比率では、22%と重点目標の20%以上を達成できた。皆勤・精勤者を増加させるには、遅刻・中抜け・早退指導の更なる徹底が必須である。

(ウ) 中途退学者の未然防止

グループ・エンカウンターを、5月、6月に1学年を対象に実施した。これにより、生徒の学校適応や学習意欲向上の一助となった。

自立支援チーム継続派遣校として、ユースソーシャルワーカーによる課題生徒の面談や家庭訪問、関係諸機関への紹介などを行った。

上記の対策に加え、生徒の出席状況把握と指導を丁寧に行った結果、中途退学者数は2名と昨年より5名減少し、減少傾向にある。重点目標である8名以下をおおきく下回るものとなった。

(4) 特別活動（生徒の自主性と実践的な態度の育成による自己有用感の向上）

(ア) 部活動の活性化と、学校行事及び委員会活動の活性化

部活動では総合デザイン部部員が「東京都立高等学校定時制通信制課程芸術祭」に応募し、銅賞を受賞した。そのほか、バスケットボール部、ステージアート部など他部活動も、人数が少ない中、活発に活動した。

生徒は、「生徒の自主性を尊重した行事運営の機会を与えている」については、78%が肯定的な評価を出している。

(5) 学校運営

(ア) 学校PR活動を充実させ、学校情報を積極的に発信する。

10月の江戸川区民まつりでは、生徒会役員が中心となり地域の子供達に懇切丁寧に玩具を作るなどの準備をすすめたが、オンライン開催となり、昨年度に引き続き例年のような活動ができなかった。11月と1月には授業公開を行い、1月と3月に学校説明会を実施した。入学者選抜第一次募集の倍率は0.23倍であった。

(イ) 分掌等組織の充実・活性化を図る。

進路部では、昨年度から進路指導計画の大幅な見直しを行い、4年間を見据えた進路指導や卒業

生による進路後援会の実施など新規事業に取り組んだ。また、生活指導部は、遅刻・中抜け・早退の指導体制を昨年よりも強固にし、生徒への指導の周知徹底をした。始業式・終業式では、校歌斉唱を学校全体で行っている。非常時に対応するための訓練は、5月、7月、9月、12月、の計4回実施した。それぞれ、火災、地震、津波など異なる被災を想定し、避難場所を毎回変えるなどして生徒の災害に対する意識向上を図った。

(ウ) 教科研修会の充実

学習指導案作成による研究授業を2名の教員が3回ずつ合計9回実施した。また、「生徒による授業アンケート」を実施し、結果をもとに教員全員による研修会を実施した。

(エ) ライフワークバランスのとれた職場環境を実現

教員の組織的な連携により、各教科での授業の準備や学年での生徒指導等の情報交換により、業務の軽減を図った。教員の年休取得日数は、平均約14日で昨年度を下回り、15日以上が4名(50%)だった。

3 次年度以降の課題と対応策

- (1) わかりやすい授業および主体的・対話的で深い学びの推進のため、ICT 機器を利活用した教育活動を実施する。(学習指導)
- (2) 基本的な生活習慣の確立と問題行動の未然防止に努め、実社会で通用する規範意識を育てる。(生活指導)
- (3) 更なる中途退学の未然防止を図るため、グループ・エンカウンター事業やスクール・ソーシャル・ワーカーを活用した組織的な取り組みを発展させる。(生活指導・進路指導)
- (4) キャリア教育の一層の推進を図り、一人一人の違いに寄り添った在り方生き方指導を行う。(進路指導)
- (5) 生徒募集対策の組織的な取り組みを充実させる。(学校運営)
- (6) ライフワークバランスのとれた職場環境を一層充実させるため、DX 化により教材作成や分掌業務などを効率化していく。